

ノリミス編み始める

水俣病の一任派家庭 生活費の足しに

水俣病患者家庭互助会の水俣病補償処理委一任派(六十六世帯)

が「少しでも生活費の足しになるなら」とノリミス編み作業を始め

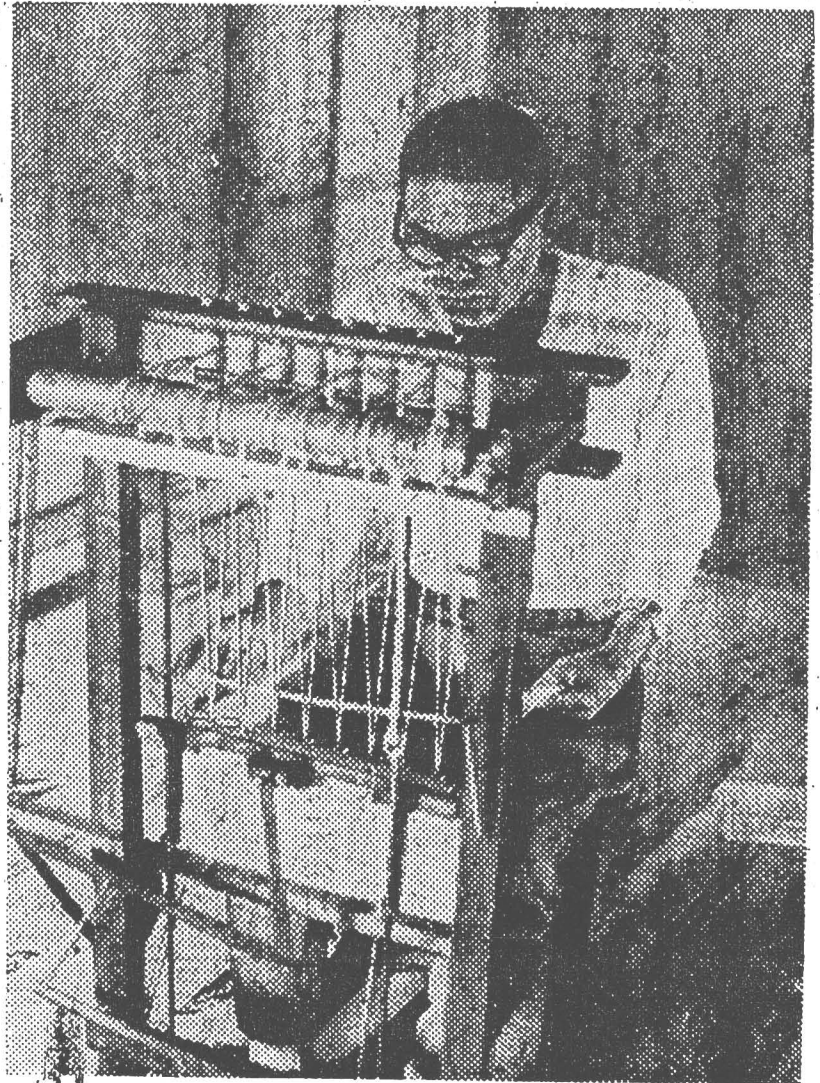
生活設計を考え始めている段階だ。

その一つがノリミス編み。チツソとの話し合いで、編み機と原料はチツソが貸与し、編み賃をかせぐことにしている。すでに八台が

患者家庭に到着し、練習を始めた。チツソのポリプロピレンを原料にしたクマザサ、ヨシの代替品

を糸で一本一本編む簡単な足踏み機械で、軽症患者にも作業は出来、家族も仕事の合い間に編むことになっている。編み賃は一枚六円で、平均百枚程度は編めるという。販路は韓国などにも求める。練習を重ねたうえ、一任派の全患者家庭に機械を入れる予定。山

本互助会長宅にも一台はいり、山本会長は漁の合い間に、慣れぬ手つきで丁寧に編んでいる。



ノリミス編みの練習をする山本会長